

めぐる議論の蓄積に自らを位置づけた。ひるがえせばそれは、教典を学ぶ営みが持つ意義をとらえるためには、同時代性と普遍性の双方に目を向ける複眼的な視点が必要とされるということであろう。

第四部会

『金剛般若経』における即非の論理と「如」の思想

末村 正代

即非の論理とは、「金剛経の禪」（『鈴木大拙全集』第五巻、以下〔巻数／頁数〕と略記）において鈴木大拙によって提唱された矛盾の論理である。他方「如」の思想とは、彼がその仏教論で再三言及する超論理的ともいえる思想である。本稿では大拙の思想に通底する何らかの構造を読み解く手がかりとして、この一見相矛盾する両者の共通項を考察したい。

初めに、大拙が即非の論理を見出した『金剛般若経』と、即非の論理について略説したい。『金剛般若経』は般若經典群のひとつで、無著・世親・智顗・吉蔵による註釈が遺されていることからわかるように、各地で非常に重視された經典であった。特に中国仏教、とりわけ禪宗はこれを重んじることで知られている。そして即非の論理とは、この『金剛般若経』第十三節に基づいて以下のように公式化されたものである。「AはAだと云ふのは、AはAでない、故に、AはAである。これは肯定が否定で、否定が肯定だと云ふことである。」〔五／三八〇―三八一〕次いで漢訳語としての「如」に関してもその変遷に触れておきたい。「如」とは元来サンスクリット語 *tathā* 及び *tathata* という指示語の漢訳であり、当初は本無と意識されていた。そして本無に代わって本格的に真如を採用した釈道安に至るまで、本無・如・如如などが乱用される時代が続いたよう

である。その後、羅什・菩提流支・玄奘を経て、最終的に真如が *tathata* の訳語として確定されることとなった。

それでは即非の論理と、大拙独自の「如」の思想に通底するものとは一体何であろうか。即非の論理は、前半「A即非A」が空観によって事物が空じられた状態、つまり事物の言語化抽象化が否定され突破された状態を表わし、「是名A」の後半が事物が仮有として如々と現成する状態、つまり事物のそのものの肯定へと迫らんとする状態を表わしている。これが先の引用における「肯定が否定で、否定が肯定」の意であろう。大拙は「凡て吾等の言葉・観念又は概念といふものは、さういふ風に、否定を媒介にして、始めて肯定に入るのが、本当の物の見方」(五／三八一)とも述べている。

続いて「如」に関してであるが、大拙は「如」について「『シユニヤター』(空)が一切を否定、あるいは拒絶するものとすれば、『タタター』(如)は、一切を受け入れ、一切をうけがうもの」(鈴木大拙著・工藤澄子訳『禅』一九八七、一七四頁)と述べている。これは、空によって否定され無差別の相の下に置かれた事物が、「如」として再び肯定され、個物的多として差別の相の下に働き出すことである。即非の論理の前半が空の無化作用を表わすことは既述の通りであるが、「如」はまさにその論理全体「A即非A、是名A」を表現している。このようにして事物は、空という否定的契機によって如として肯定される。そしてこの否定と肯定は過程的に実現されるのではなく、空の場が即如である。

以上見てきたように、即非の論理と「如」に通底するものと

は「否定即肯定」の構造である。大拙はしばしばその著述において、仏教の論理化の必要性を説いている。言詮不及の真理を論理化することは困難な課題であるが、即非の論理はその要請に対するひとつの回答であるだろう。片や「如」とは、直観的に看取される事物のあるがままの姿を現成せしめる、空と一体化した見である。実体や概念が否定されたその場が、即そのものの自体の肯定ということである。このように即非の論理と「如」とは、仏教的真理における「否定即肯定」の構造を論理・直観の二方面から言い表したもので言えるのではないだろうか。

『雑阿毘曇心論』業品における無間業の壊僧について

智公 公和

『雑阿毘曇心論』(Samyuktābhidharma-hrdaya-sāstra, 大正蔵経 No. 1552, 以下『雑心論』と略す)業品(Karma-nirdeśa)における無間業の壊僧が説かれている偈と長行は、一七一偈とその長行である。それらの偈と長行は、大正蔵経二八巻八九九頁中段一一行から二四行までである。

この偈と長行を取り上げることによって、無間業の壊僧について論述していきたい。論述方法は、『雑心論』と『心論』『心論経』を対比し、玄奘訳『俱舍論』、この漢本に相応するプラダン本の梵文を参照し、梵文『称友疏』等を対比させて、また『順正理論』も参考にしながら、無間業の壊僧について述べていくものである。

『雑心論』の無間業における壊僧が説かれている一七一偈は、「妄語もて僧を破壊するは、諸の業に於いて最悪なり。」これを